

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画策定に向けた 市民アンケートの調査結果について

1. アンケート概要

アンケートについては、鎌倉市民の中から 3,000 人に対して郵送により、インフラに関する市民意識を聞き取ることを主目的として実施した。概要については以下の表に示す。

表 1 アンケートの概要

実施方法	郵送
開始日	平成 27 年 12 月 18 日
終了日	平成 28 年 1 月 8 日
質問数	7 問
アンケート郵送数	3,000 通
アンケート回収数	1,007 通
アンケート回収率	34%

2. 集計結果(単純集計)

各質問の回答について集計を行い以下に整理した。

質問 1：インフラの現状について

パンフレットをご覧いただき、鎌倉市のインフラ（道路、河川、公園等、下水道など）の現状について、ご理解いただけましたか。

表 2 インフラの現状について 回答数

選択肢	回答数	割合
1. 理解できた	362	36%
2. ある程度は理解できた	605	60%
3. 理解できなかった	29	3%
無回答	11	1%
合計	1,007	100%

インフラの現状について、理解できた人は 36%、ある程度理解できた人は 60%であり、概ね理解頂けた結果となった。

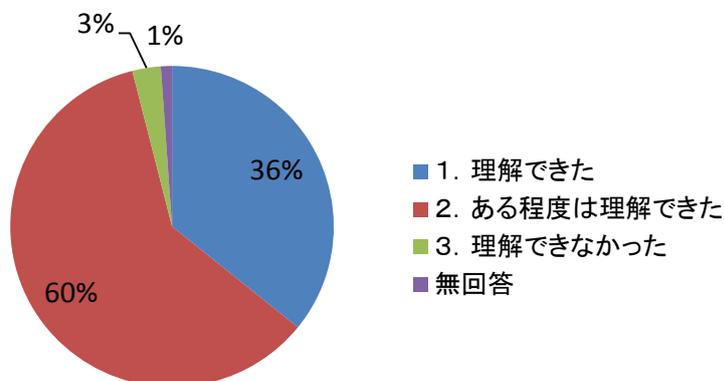


図 1 インフラの現状について 割合

質問2：これまでのインフラの維持管理に関する印象について

日常生活の中で、鎌倉市のインフラの維持管理について、あなたの印象はいかがですか。

表3 これまでのインフラの維持管理に関する印象について 回答数

選択肢	回答数	割合
1. 満足している	57	6%
2. やや満足している	162	16%
3. 特に満足も不満も感じていない	379	38%
4. やや不満である	235	23%
5. 不満である	109	11%
6. 考えたことはない	44	4%
無回答	23	2%
合計	1,009	100%

※複数選択している回答があり、合計数は合わない。

特に満足も不満も感じていない人は38%で最も多いが、次に多いのは、不満を感じている人であり、やや不満である人(23%)と不満である人(11%)を合わせた34%となっている。

一方、満足している人(6%)とやや満足している人(16%)を合わせて22%であり、概ね不満を感じている人が多いことが伺える。

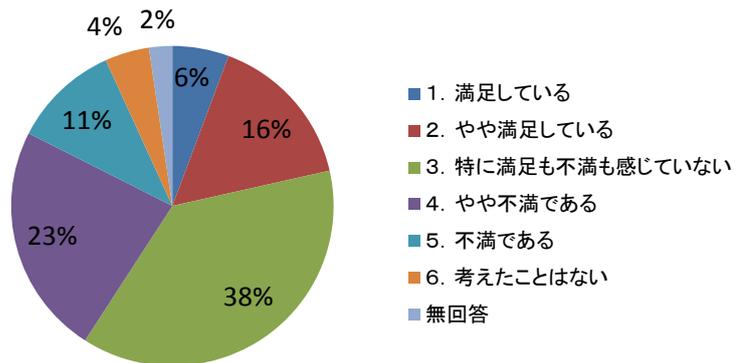


図2 これまでのインフラの維持管理に関する印象について 割合

質問3：インフラの課題について

鎌倉市のインフラの中で、どの施設に課題があるとお考えですか。3つ選び○をつけてください。

表4 インフラの課題について 回答数

選択肢	回答数
1. 道路（舗装）	526
2. 道路付属設備（街路照明灯、道路標識、ガードレールなど）	444
3. 橋りょう	111
4. トンネル及び地下道	204
5. 河川	216
6. 雨水調整池	73
7. 公園	244
8. 緑地	138
9. 下水道	191
10. 漁港	20
11. 生活環境施設（ごみ処理施設）	463
無回答	36
合計	2,666

課題があると感じている施設で、最も多いものは道路（舗装）であり（526件）、次に多いのは生活環境施設（ごみ処理施設）（463件）と道路付属設備（444件）となっている。その後は公園（244件）、河川（216件）、トンネル及び地下道（204件）と続いており、道路関連と生活環境施設に対する課題を感じている人が特に多いことが伺える。

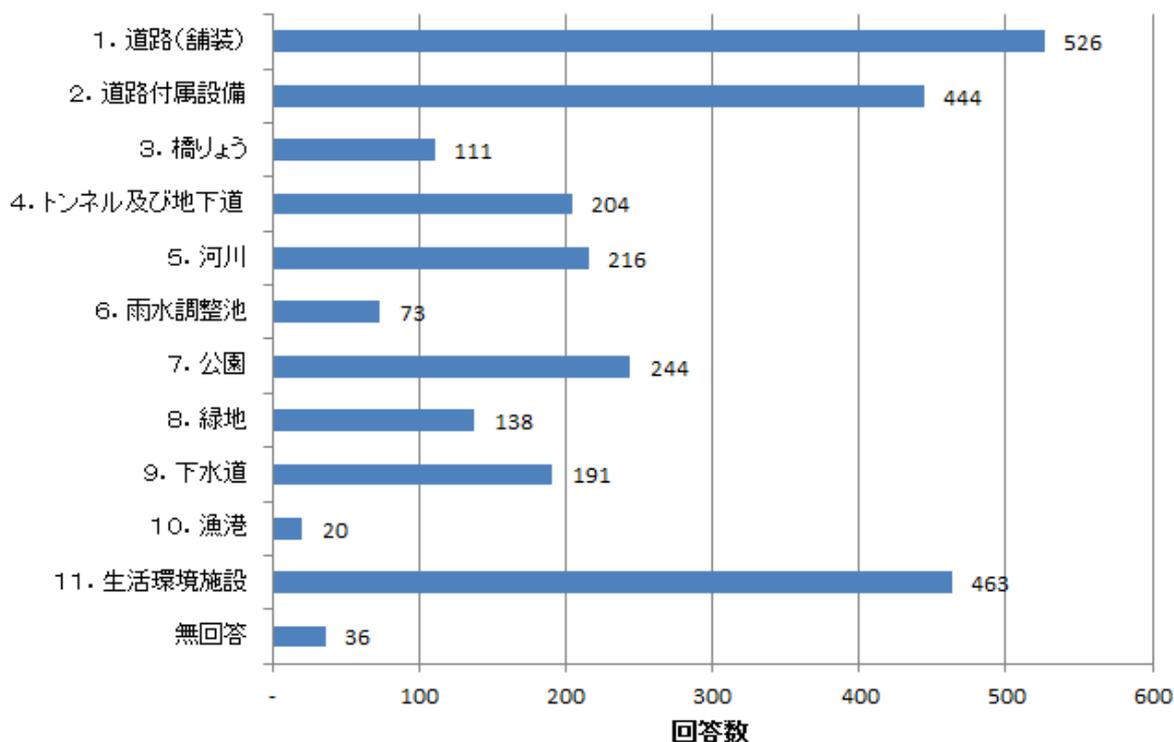


図3 インフラの課題について

質問4：維持管理に力を注ぐべきインフラについて

質問3で、あなたが、課題があると考えたインフラについて、どのようなことが課題であると感じているかお聞かせください。

施設ごとに主な意見を整理した。

表5 維持管理に力を注ぐべきインフラについて 主な意見

施設	主な意見
道路（舗装）	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>道路デコボコの道が多い、足の悪い高齢者には大変負担がかかる。</u> ・<u>最近、道路の舗装工事が多く行われていると感じていますが、まだまだ、荒れた所が多いように感じます。</u> ・<u>道路、特に歩道の整備が不十分であると思っています。これは住民の為のみならず、鎌倉に来る観光客の印象も改善し観光収入の増加にも寄与すると考えます。</u> ・<u>身近な事で道路デコボコ、ヒールがはけない。老人にとっては、つまり原因になっていると思います。</u> ・<u>道路 観光都市として鎌倉のイメージアップ、維持のためには、道路については少なくとも現状維持（これ以上の悪化は避けるべき）すべき</u> ・<u>鎌倉市は周辺都市に比べ道路幅が狭く、自動車、歩行者の通行が不便に感じます。今後、益々高齢化が進む中、安全・安心な交通環境の整備を期待します。</u> ・<u>ガス・水道・下水等の埋設配管をバラバラと更新する為に、土木工事にムダが多く道路もつぎはぎになってしまっている。一連の更新と再舗装を連携して計画する必要があると考えます。</u> ・<u>道路整備が不十分です。歩くのが儘ならない、車が水溜りの水を跳ね返す、車を避けての市道を歩く・通勤通学（歩道が無いし歩行者優先表示もしていない）旅行用キャリーバックを引けばガタガタ車輪が跳ねる。何度も市役所道路整備課に足を向けても、穴があいたりつぎはぎだらけ。道路工事後の不完全舗装に対しても市政は無頓着です。</u> ・<u>道路：都内など都市部に比べ舗装状態が非常に悪い</u>
道路附属設備（街路照明灯、道路標識、ガードレールなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>道路標識、ミラー、交通規制標識等を良く点検し、見易く又現状の交通量を勘案し修正すべき処があるのではないのでしょうか。</u> ・<u>道路附属設備は足りないところ（街灯など）も感じるが、無駄な標識も多いと思う。ガードレールも人を守っているのか車を守っているのかわからない場所も邪魔なだけと思われるところもある</u> ・<u>防犯灯の設置基準を設ける。市は防犯照明灯の電気使用料を負担しているが、防犯灯ではない、ぜいたくな飾りで街路照明灯（元商店会の持ち物）の電気使用料を負担するのは税の無駄遣いである。</u> ・<u>道路附属設備：①道路標識が樹木により見えない所がある②道路標識の柱が曲がっている所がある③ガードレールがない歩道が多くある</u> ・<u>道路舗装が応急処置的なものが多く走行不快。道路標識が多く、看板等で見にくいものがある、ガードレールについても意味が分からない（交通量が少ない）ところに設置が散見される。</u>

施設	主な意見
道路付属設備（街路照明灯、道路標識、ガードレールなど）	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>街路照明灯、ガードレール、カーブミラー等が必要ヶ所と必ずしも必要ヶ所でないところの市の認識が弱いのではないか？</u> ・<u>街路樹について：市道は県道、国道に比べ道幅が狭いので、街路樹は必要ないと考える。多大な経費をかけて更新するより、撤去して跡地を自転車道とする等の利用法を考えるべき。但し、段葛のように特に景観を保持すべき箇所は整備すべきと考える。</u>
橋りょう	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>子どもと一緒に歩道橋を歩くのですが、でこぼこしているし、上の道は穴があいていてこわいし、特に生活していてこわいので選びました。</u> ・<u>橋りょうは古くなっており、確実に点検してくれてるのか心配。</u> ・<u>橋・トンネル・地下道は整備、保守を怠ると生命の危険にさらされる事になる。</u> ・<u>橋りょう（個人的にはトンネルも含む）等、日常当たり前に使っているインフラについては安全に使用できることが、最も重要と考える（最近のトンネル崩落等）橋りょうは50年経過14%との事なので安全確認して頂きたい。</u>
トンネル及び地下道	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>現在の道路インフラ等はそれなりに充実していると考えますが、鎌倉市の地勢・地域の特性として、いわゆる「切り通し」の道路、トンネルが多くあるので、今後の自然災害を考えた場合、人命は勿論として、道路・交通網の確保のため、老朽化がみられるそれらのインフラへの対応が必要と考える。</u> ・<u>老朽化しているトンネルや地下道が多いと感じるので優先して整備すべき。笹子トンネル崩落事故のようなことは二度と繰り返してはならないと思う。</u> ・<u>市民生活に直接関係のある生活道路のトンネルの老朽化の整備をすること。例えば、土砂災害でトンネルが崩壊してしまった場合、その地域が封鎖されてしまうような地域のトンネル修理。</u>
河川	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>河川・雨水調整池→数年に1度とはいえ道路が冠水する事があります。今後、温暖化により、大雨の頻度は増すでしょうから、現状維持の管理だけでなく拡充しないといけないと考えます。</u> ・<u>10年位前に大雨により自宅前の川が氾濫しました。あふれた水が玄関のドアの所まで来て、とてもこわい思いをしました。もう二度とあんな思いはしたくないです。</u> ・<u>大雨で川が氾濫することがあり、道路が川になる、排水が詰まると水の引くのに余計に時間がかかる。</u>
雨水調整池	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>雨水調整池は、開発業者が行っていると思っていました。それでしたらその開発宅地の住人か自治会が管理すべきだと思います。</u> ・<u>住宅地等にかかわる雨水調整池は当該の地域住民にて分担さすべし。</u> ・<u>雨水調整池 洪水から住民の命・生活を守るためには予算を削るべきではない。</u> ・<u>雨水調整池の維持費の増加。</u>

施設	主な意見
公園	<ul style="list-style-type: none"> ・公園— <u>現実使われていない処があり、何の為の公園なのか？維持費は？市営駐車場等にして収入を得ることは考えられないのか？</u> ・公園— <u>特に子どもが遊ぶ遊具の老朽化により事故があった場合は、許されないと考える。安全性の確保を第一に考えて欲しい。</u>（近所の公園の遊具が長らく使用禁止になり黄色のテープが数ヶ月間つけっぱなしになっていてたいへん印象が悪く感じた） ・公園の<u>遊具の老朽化したものは選別のうえ更新ではなく、撤去した方が良いのではないか。人口減少、少子化により必要なもののみ選別し集中させるべき。</u> ・公園— <u>少子高齢化の進展をおさえるためにも、子育て世代にとって鎌倉を選択する重要なポイントとなる公園は今以上に力を入れるべき。</u> ・<u>鎌倉は市全体が公園のようでもあり、海岸にも恵まれているので公園の数は減らしてもいいかと思います。子供たちには学校の敷地を活用して遊具は余り利用されていないように感じますので遊具をまとめて置く公園とか少子化に伴い学校の運動場活用など考えられないでしょうか。整備された公園に人の姿が見かけられず建物迄作る必要があったか等感じます。</u> ・小さい子供がいるので、毎日のように公園には行くが、いつも使われていない公園がいくつもある。<u>少し大きめのよく使われている公園のみを残して、使われていない公園は土地を売って、有効利用した方がよいと思う。</u> ・公園の整備に年間10億かかっているとのことだが町内会などの活動を利用するなどしていると思う。<u>大きな公園の整備に金額が多くかかっているのだと思うが、外資を入れるなど方法はないのでしょうか？</u> ・公園について：宅地開発により設置され市に移管された公園には立地が悪く児童の遊び場としては適当でない公園がある。これらの公園の遊具等は更新の必要はないと考えて<u>地域の住民と協議して有効な利用を考えるべきである。公園内の樹木も同様である。</u> ・公園や緑地は、<u>規模の縮小や近隣住民の協力で唯一費用を抑えられるのではないかと思います</u>
緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>管理不足が放置されているのではないかと思います様な施設・緑地などがある様に思える。ある程度の予算を与えて維持管理をするボランティア個人や団体を指定してはどうか。</u> ・<u>緑地：定期的整備がされていない。枯れ木などにより火災、大木化による地盤への影響により傾斜地の土砂崩れ発生などを心配する。</u> ・公園・緑地— <u>緑豊かな鎌倉であるが、このまま放置すれば荒れ放題の緑地、公園になってしまう。大規模開発に伴う小さな公園の乱立は都市計画の無策としかいいようがない。緑地も公園との分類定義も市民にはわかりにくく、市民として利用し親しめるような緑地の整備方針が必要。近隣の市民への整備を依存するためには市と市民との考え方の統合が重要で、このためにはきめ細かな対話が必要となろう。</u> ・<u>緑地の保全は全く逆方向で守れてない。</u>

施設	主な意見
下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・命が第一。時間をかけて処理できない問題から取り組むべきだと思います。また、<u>下水道が最も費用を必要とするインフラなら、課題をもっと掘り下げて取り組むべき</u>だと思います。 ・<u>老朽下水道管渠の補修等一時しのぎでなく根本的なりニューアルを。受益者負担の強化。</u>（一時しのぎは結局不経済である） ・日常生活に直接関与し、且つ重要なインフラは下水道だと思います。老朽化には抗い難く整備に費用がかかることに理解し、<u>相応の負担をすべき</u>と考えます。 ・<u>地震などの災害時に多大な影響があるもの、一度壊れると修復が大掛かりで代替手段のないものに優先的に力を注ぐべき。</u>下水道は特に安全対策をしっかりして欲しいです。
漁港	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>腰越漁港をもっと観光推進化すべき。</u> ・<u>漁港は受益者負担で行うべきで、漁協組合に負担させるべき、出来れば民間に委託、譲渡すべき</u>（災害時には公的機能を持たせる前提）
生活環境施設（ごみ処理施設）	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>ゴミ処理施設には現在もっとも関心があり、日々の生活に直結した問題か</u>と思います。 ・<u>ごみ処理施設の維持は生活基盤上不可欠。</u> ・ゴミは有料化になっているが、清掃事業に関する市民サービスが向上したわけでもなく（粗大ゴミの持ち込みは予約制になり、年末はだいぶ早い時期から受付を終了されている。）新たな発想での新技術の導入や民間委託などに関しても特に具体的な将来計画がある様には聞こえてこない。既存の延長線上で考えるのではなく、<u>IOTを使用したゴミ回収システムによる運送コストの削減など新しいアイデアと工夫をインフラ整備・投資に反映させる必要があると感じる。</u> ・ゴミ処理施設も、新しい場所に出来たらと思います。何年か前からゴミを減らし、随分よくなっていると思います。でも、名越1機では、大変かと思っています。場所を決めるのも、地元の理解など問題は<u>大だ</u>と思いますが、<u>鎌倉に住んでいる市民にとって不可欠</u>です。皆で理解、協力せねばと考えます。 ・新しくゴミ処理施設を造る場合 <ul style="list-style-type: none"> ・<u>緑の樹木で囲む</u>などして近隣の住民に目障りとならない配慮をしてほしい ・<u>排出される熱の有効利用を</u>（企業に売るなど） ・有害物質排出防止のための研究を施設が完成した後も続けてほしい

参考として、意見の数とその割合について整理した。

表 6 維持管理に力を注ぐべきインフラについて 意見の数（参考）

施設	意見の数※ ¹	割合
道路（舗装）	420	20%
道路付属設備（街路照明灯、道路標識、ガードレールなど）	349	17%
橋りょう	89	4%
トンネル及び地下道	157	8%
河川	179	9%
雨水調整池	57	3%
公園	214	10%
緑地	108	5%
下水道	136	7%
漁港	17	1%
生活環境施設（ごみ処理施設）	337	16%
意見の総数※ ²	775	100%

※¹ 質問 3 にて選択した施設で、かつ意見を記載している回答数としている。したがって、必ずしもその施設に対する意見が含まれているものではない。

※² 複数の施設に重複している意見もあり、意見の数の和が総数にはならない。

道路（舗装）に関する意見が最も多く 20%、その後は、生活環境施設（ごみ処理施設）16%、道路付属設備 17%、河川 9%となっている。

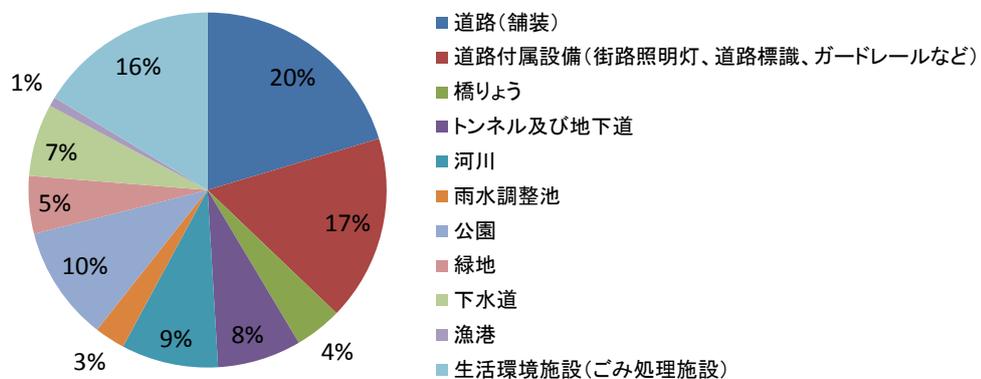


図 4 維持管理に力を注ぐべきインフラについて 意見の割合（参考）

質問5：これからのインフラ維持管理のあり方について

市では、様々な手法を使い、インフラの維持管理経費を縮減することや平準化することを考えていますが、経費を「減らす」だけでは、適切で持続的な維持管理を行っていくことはできません。限られた予算の中で、インフラを安全で安心して使えるように維持管理していくには、一定の痛みを伴う場合も出てまいります。皆さんは今後のインフラ維持管理をどのようにすればよいとお考えですか。（複数回答可）

表7 これからのインフラ維持管理のあり方について 回答数

選択肢	回答数
1. サービス水準や管理水準を下げ、予算に応じた維持管理を行うべきである	153
2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきである	198
3. 現在あるインフラの機能を落として、維持管理を行うべきである	51
4. 他の施策を中止してでも、インフラの維持管理を優先すべきである	269
5. 市民の負担を増やしても、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきである	212
6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきである	518
7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきである	401
8. わからない	51
9. その他	111
無回答	36
合計	2,200

最も多い回答は、6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきである（518件）で、次に7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきである（401件）となっている。

また、4. 他の施策を中止してでも、インフラの維持管理を優先すべきである（269件）と、5. 市民の負担を増やしてでも、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきである（212件）の合計は481件になる。

一方、2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきである（198件）と、1. サービス水準や管理水準を下げ、予算に応じた維持管理を行うべきである（153件）との合計は351件である。

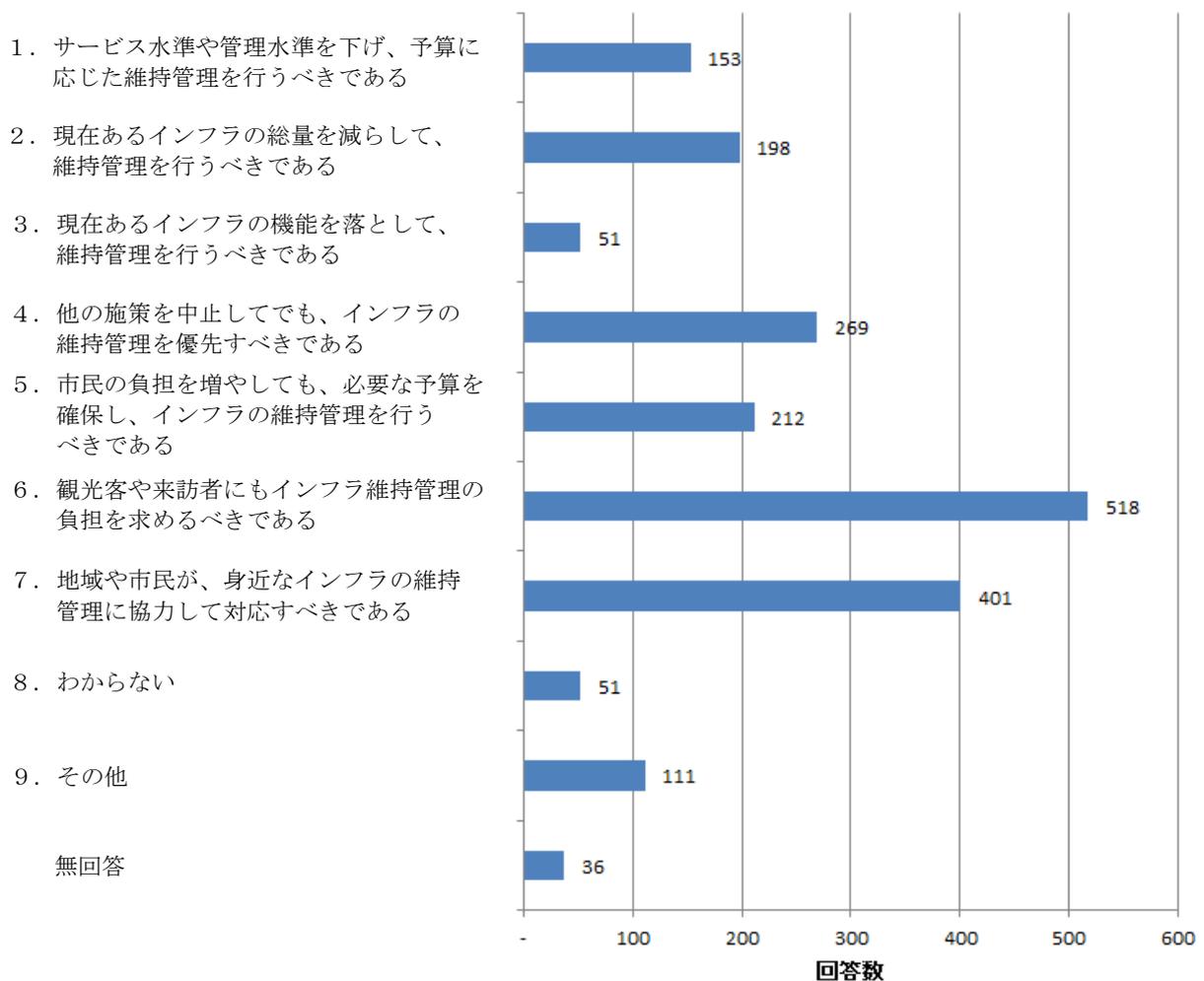


図 5 これからのインフラ維持管理のあり方について

その他の維持管理のあり方について、以下に主なものを抜粋した。

表 8 これからのインフラ維持管理のあり方について その他の主な意見

その他の主な意見
<ul style="list-style-type: none">・市民からの寄付の活用（減税と併用）・ネーミングライツにて買い手が付く施設は積極的に応募を募り収入を図る・ふるさと納税やクラウドファンディングなどの利用、他の施策との優先順位として上位にする・新規事業の拡大は、これ以上無理既存の施設の維持管理に専念すべきです。・ボランティアの活用・人口減少に合わせてインフラの総量を徐々に減らす施策、方針を検討すべき。これ以上増やす必要はない。・必要なインフラの優先順位（使用頻度、利用者数など）を決めて維持管理する・ゴミ拾いなど地域、市民ができるところは協力して行う。できる限りで協力していく。・投資の費用対効果によって優先順位付けして進めるべきである・財政を見直し、不必要な出費は削減すべき・インフラの充実には増税が不可避と決め付けず（近隣の自治体を見ても）鎌倉市の現在の税収内で最大限の予算配分を考えて頂き、インフラを改善することは充分可能と思われます。・市役所の仕事全体の見直し・ボランティア参加で市民で協力すれば最初は少しでも拡大していけると思います。特に公園の管理・経費を減らすのは当然となるが、財源の根本を見直すべきである

質問6：ご意見など

ご意見があれば記入してください。

施設ごとに意見の数と主な意見を整理した。

表9 ご意見など 意見の数（参考）

施設	キーワード	意見の数※ ¹
道路（舗装）	道路、舗装	57
道路付属設備（街路照明灯、道路標識、ガードレールなど）	道路付属施設、ガードレール、カーブミラー、標識、照明、街路樹	12
橋りょう	橋	12
トンネル及び地下道	トンネル、地下道	14
河川	川	17
雨水調整池	調整池	0
公園	公園、遊具	41
緑地	緑地	17
下水道	下水道、終末処理場	10
漁港	漁港	1
生活環境施設（ごみ処理施設）	生活環境施設、クリーンセンター、焼却場、ごみ、ゴミ	44
その他	—	345
意見の総数※ ²		478

※¹ 意見の数については、キーワードが含まれる意見の数を記載している。

※² 複数の施設に重複している意見もあり、意見の数の和が総数にはならない。

表10 ご意見など 主な意見

施設	主な意見
道路（舗装）	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度市民が負担をしないと整備できないと思います。 ”みんなのもの”として公園や道路や橋や川を大切にする。できる人は管理にも協力するとよいと思います。 観光客から何らかの形で負担をしてもらう必要があります。 (観光客のために市民が全てを負担するのも厳しい) ・観光客から道路使用料を払ってもらう ・道路の未舗装はないものの舗装の整備が行き届いていないデコボコな市道が多いと感じるが、そのために速度を落として車が通る為、安全面では良いと思うところがあり、<u>最高の維持管理が良い</u>とも言い難い。緊急時に最低限機能するインフラ維持管理でお願いしたい。 ・インフラ、特にトンネルや河川、道路など、老朽化を放置する等により、<u>市民の生命の安全がおびやかされるような状況はあり得ないので、質問5に対して、安易に結論を出すことは得策ではない。</u>質問5の6については徴収の仕方については、大いに研究の余地はあるが、有効な手段のひとつになり得ると思いい関心がある。

施設	主な意見
道路付属設備(街路照明灯、道路標識、ガードレールなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域にちょっとした事なら出来る技術を持った高齢者達がいま</u><u>す。町内会等でそういう人を活用し、壊れた所、汚れた標識等低</u><u>料金でやってもらい資金を上手にやりくりしてインフラの維持</u><u>管理をきちんとして欲しい</u> ・<u>地域や市民がインフラについて考えるようになればと考える。</u>例 えば、公園に遊具を設置する際には、近隣の住民の出資で建設 するなど。自分達の地域のことを自分達で考え、決めるという仕組 みがあれば受益者である地域住民が地域について考え、地域の今 後についても考えることができるのではないか。<u>道路付属設備や</u><u>公園、</u><u>緑地</u><u>など住民で管理できるようなものを、市のレベルでは</u><u>なく</u><u>地区</u><u>レベルで考えてもらえれば良いのでは。</u>
橋りょう	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>歩道橋はほとんど使用されないまま、錆びや損壊等激しく、高齢</u><u>化にともなって登り下りのあるものは、益々使用されないでし</u><u>ょう。美観も悪く他の方法を考えた方が良いのでは。</u> ・<u>無駄なインフラ投資は中止して欲しい。</u>大船駅西口の歩道橋すで にグラついていて何年もつやら、折角つくっても維持は困難なの ではないのかと思う。但し、<u>トンネルや橋など最低必要なものは</u><u>そ</u><u>こ</u><u>そ</u><u>こ</u><u>に</u><u>管理</u><u>する</u><u>必要</u><u>がある</u><u>か</u><u>と</u><u>思</u><u>う。</u>子供たちに負の遺産を 残すべきではない。
トンネル及び地下道	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>まず道路の整備が必要。特に鎌倉駅周辺での渋滞、安全性を考え、</u><u>トン</u><u>ネル</u><u>・</u><u>地下</u><u>道</u><u>・</u><u>子供</u><u>の</u><u>た</u><u>め</u><u>の</u><u>通</u><u>学</u><u>路</u><u>の</u><u>ガ</u><u>ード</u><u>レ</u><u>ール</u><u>の</u><u>整</u><u>備</u><u>が</u><u>必</u><u>要</u><u>、</u>例 えば電柱を地下に埋めるなどの対応 ・<u>自然災害(地震、水害など)を想定しての、崖崩れやトンネルの</u><u>崩</u><u>壊</u><u>な</u><u>ど</u><u>を</u><u>予</u><u>防</u><u>す</u><u>る</u><u>た</u><u>め</u><u>の</u><u>整</u><u>備</u><u>を</u><u>優</u><u>先</u><u>し</u><u>て</u><u>ほ</u><u>しい。</u>
河川	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>自分は地域の公園や河川の清掃ボランティアに関わっているが、</u><u>そ</u><u>う</u><u>い</u><u>う</u><u>活</u><u>動</u><u>は</u><u>も</u><u>っ</u><u>と</u><u>広</u><u>が</u><u>っ</u><u>て</u><u>よ</u><u>い</u><u>と</u><u>思</u><u>う。</u>ただ、これが「イン フラの維持・管理」といえるものなのかはわからない。 ・<u>現在、柏尾川の氾濫をよく考えて頂きたい。</u>もし、地震により津 波が来たら大船等海岸等全滅に成ると思われる。その点に重視し たインフラを考えて貰いたい。津波が来た場合、川に流れている 小さい川を切断する方法を考えて貰いたい。そうすれば、少しで も災害を少なく成る
雨水調整池	(意見なし)
公園	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>シルバーの方達に、公園や道路の清掃、公園の管理等ボランテ</u><u>ィ</u><u>ア</u><u>で</u><u>お</u><u>手</u><u>伝</u><u>い</u><u>を</u><u>し</u><u>て</u><u>もら</u><u>い、</u><u>経</u><u>費</u><u>の</u><u>節</u><u>約</u><u>を</u><u>す</u><u>る。</u> ・<u>地域(地区)に任せることの出来る事項(公園の管理等)は地域</u><u>住</u><u>民</u><u>を</u><u>積</u><u>極</u><u>的</u><u>に</u><u>使</u><u>う</u><u>べ</u><u>き</u><u>で</u><u>あ</u><u>る</u> ・<u>地域や市民がインフラについて考えるようになればと考える。</u>例 えば、公園に遊具を設置する際には、近隣の住民の出資で建設す るなど。<u>自分達の地域のことを自分達で考え、決めるという仕組</u><u>み</u><u>が</u><u>あ</u><u>れ</u><u>ば</u><u>受</u><u>益</u><u>者</u><u>で</u><u>あ</u><u>る</u><u>地</u><u>域</u><u>住</u><u>民</u><u>が</u><u>地</u><u>域</u><u>に</u><u>つ</u><u>い</u><u>て</u><u>考</u><u>え、</u><u>地</u><u>域</u><u>の</u><u>今</u><u>後</u><u>に</u><u>つ</u><u>い</u><u>て</u><u>も</u><u>考</u><u>え</u><u>る</u><u>こ</u><u>と</u><u>が</u><u>で</u><u>き</u><u>る</u><u>の</u><u>で</u><u>は</u><u>な</u><u>い</u><u>か。</u><u>道</u><u>路</u><u>付</u><u>属</u><u>設</u><u>備</u><u>や</u><u>公</u><u>園、</u><u>緑</u><u>地</u><u>な</u><u>ど</u><u>住</u><u>民</u><u>で</u><u>管</u><u>理</u><u>で</u><u>き</u><u>る</u><u>よ</u><u>う</u><u>な</u><u>もの</u><u>を、</u><u>市</u><u>の</u><u>レ</u><u>ベル</u><u>で</u><u>は</u><u>な</u><u>く</u><u>地</u><u>区</u><u>レ</u><u>ベル</u><u>で</u><u>考</u><u>え</u><u>て</u><u>もら</u><u>え</u><u>ば</u><u>良</u><u>い</u><u>の</u><u>で</u><u>は。</u> ・<u>生活(安全)に直結したインフラについては総量を減らしたり、</u><u>機</u><u>能</u><u>を</u><u>落</u><u>と</u><u>す</u><u>事</u><u>は</u><u>出</u><u>来</u><u>な</u><u>い</u><u>と</u><u>思</u><u>う。</u>但し、<u>公園、緑地については</u><u>見</u><u>直</u><u>し</u><u>が</u><u>可</u><u>能</u><u>と</u><u>思</u><u>わ</u><u>れる</u><u>(必要性、維持管理の方法)</u>

施設	主な意見
公園	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラの課題を3つ選ぶことはなかなか難しかったです。公園の施設の老朽化とは、遊具等の老朽化を指すのでしょうか、<u>遊具のことであるならば、公園の利用状況、遊具の利用状況を調査の上で維持管理を行い、利用の少ない物は撤去し、維持管理の量を減らしていく方向で検討して頂きたい</u>と思います。
緑地	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに緑地の維持管理を周辺住民で行っている。手近なことで市民が協力が出来ればインフラ維持管理の必要性を常に意識することにもなる。各必要経費は仕方ないが、ムダを削減してほしい。 ・鎌倉は緑の山野と海を観光資源としてインフラ整備を考えるならば、まず交通が第一でその資源としての緑の野山、公園と緑地が第二であろう。限られた資源での計画で整備するには道路は受益者による負担を増やすべきだろう。観光客や観光施設への負担を求めるべきだと思う。<u>公園、緑地の整備は市民が協力しやすい方策を検討していく必要がある。</u>
下水道	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道などインフラは一時しのぎの補修より根本的なリニューアルが次代のためにも必要である ・将来、インフラの老朽化等による維持管理非が増加していくことは理解できる。<u>市民生活に一日も欠かすことの出来ない下水道とゴミ処理施設については優先的に費用を当てることとして、その他は安全、利便性から優先順位をつけて、経費の平均化を計って実施して行く事に尽きるのではないかと思う。</u>
漁港	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の漁協組合関係者の意向で漁港を市が維持管理するのは全くおかしい。兼ねてより疑問を感じており、近所でも同意見の人々が多い。観光客にも負担させるべきである
生活環境施設(ごみ処理施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・4月よりゴミを有料化しており、<u>全国的にみても高い負担の市です。これ以上の市民の負担増加は許されません</u> ・なくてはならないインフラであるが、<u>ごみの有料化の様に市民にこれ以上負担がかかるようになるのも市民の移転などを招くこともあるのではと思うので、できるかぎりの協力はしたいが、負担になるようなことは避けて頂きたい</u>です。 ・観光客については、相応の負担を求めるべきである。道路、環境(ゴミ、下水)等。 ・下水やクリーンセンターについては、<u>市民の負担もやむなし</u>と思う
その他	<p>＜基本施策に関する内容の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場合によってはサービス水準の引き下げ、インフラの量・機能を引き下げという手もあり得るが、その場合は今の水準がこれほどで、そこから何かを引き下げた場合どんな影響があるのかという話と合せて検証すべきで、上記のように漠然とした一般論で語るべきではない。 ・受益者負担の方針をもっと押し進める必要がある ・人情的には税金は多くない方が良いです。<u>しかし、インフラの維持管理の内容を精査して重要な順に数年度毎に集中して補修を行うとか、効率よく知恵を絞り運営して頂きたいと考えます。その上で税金の負担増はありかと思えます。インフラの充実と税金増のバランスの問題だ</u>と思えます。

施設	主な意見
その他	<p>＜基本施策に関する内容の意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この問題は一市のみの問題だけでなく、日本全体の問題であると思う。<u>市内に拠点を置く技術系企業もあるので、連携して技術革新による維持管理の効果率化の道などもあるのではないかと</u>思う。 ・<u>利用者の少ないインフラは、減らしても良いと思います。命に関わる事故が起きる可能性があるインフラは、維持管理が優先的に必要で、かつ維持管理しやすいように（コストが今後かかりにくいように）改修しなおすべきだと</u>考えます。（当たり前ですかね。失礼しました。）<u>その過程で今まで市が維持管理していたものの中で何をしない/減らすことにしたのか、理由とともに公表し、地域や市民に身近なインフラ維持管理協力を求める（具体的に）場面も出てくると</u>考えます。 ・（質問5に対応して）2：人口減に伴い、<u>利用率等を調査した上でインフラ総量の適正化を図る必要がある。また整備基準の見直し（オーバースペック回避）を図るべき。5：インフラ総量の適性化後の不足財源は市民が負担すべき。6：観光地鎌倉へ観光客もインフラ利用をしており、観光客を相手にしている企業、商店から</u>税収の徴収を検討すべき。 ・古いインフラを維持するには徐々に費用も掛ってくることは理解できますが、急に試算したら2倍かかるというのは理解できません。マンションでは、<u>管理費とは別に大規模修繕費を積立る訳ですが、インフラを装備・建設した場合もそのような考え方はできないのでしょうか。今回のアンケートが、有効とは余り考えられませんが同封された資料程度でも市民に理解してもらうようなことは良いことである</u>と思います。 ・（質問5に対応して）7.市が修復などにきちんとした対応し、市民が納得した上で。各インフラの耐用年数が設置時点で予想される課題だったとしたら、<u>施設維持のための予算を用意しておかなかったか疑問が残る。例えばマンションの維持には管理費以外に維持の準備金を積み立てているように。ただ、大地震の可能性が各地で他人事ではない今の状態では、より堅固な対策が必要となるため、市民の理解が必要だ</u>と思う。質問5のインフラ維持管理について（4）は避けて通れない施策だと思う（ちなみに山崎浄化センターの静御前の陶板アートは全く評価していない。 ・<u>鎌倉市として一律の対応をする必要はないと</u>考えます。地域には観光、工業、漁業等まったく異なるインフラを必要とする産業が混在し、また居住者は「質の低下」は受入れがたいのではないかと推測します。<u>特色の様な考え方で、それぞれ地域・産業に応じて優先順位や仕組みを変える。きめ細か対応が必要と</u>考えます。 ・<u>市が公金で管理すべきものと民間資本を導入して、簡素化すべきもの（必要なもの、無駄なものの区別、財源のあるべき姿を再検討）を仕分けした上で、市民へのサービス向上を更に図って頂きたい</u>と思います。

施設	主な意見
その他	<p><基本施策に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>補修工事一つ一つ（・目的・工事の内容・かかる費用）などを具体的に市民に公開し、協力を募ったら良いと思う。金銭面でも自分の生活に大きく関わる部分なら・・・と、協力してくれる人はいると思う。インターネットでも寄付を受け付けては？</u>但し、工事の内容などクリアでないと困る。 ・人口減、高齢化は避けられない。<u>市民税収減分を観光客が落とす金銭増により補填する方向を拡大推進する。地元生活者と、観光客が利用する交通インフラを明確に分離。受益者負担の原則であれば、観光者に対しインフラ整備費用を負担頂く事。ETCゲートを設置する事により通過する観光車両への課金。JR利用観光客からは、Suicaから徴収する仕組みを作る。</u> ・必要な費用が不足しているのであれば、「<u>鎌倉を愛する人によるインフラ整備バックアップ基金</u>」などの名目でクラウドファンディングで全国から広く薄く資金を集め、協力してくれた人を紹介、招待してより一層鎌倉を好きになってもらうなど、今までとは違う資金確保を考えるべき <p><取組みの視点に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラの総量や機能についての適切なレベルという判断基準を持っていないため判断しがたいが、<u>下げる、落とす、減らすの前にできること（積極策）の選択が1つも入っていない事がインフラ行政のあり方を象徴している様に思えてならない。</u>（このアンケートの目的が市民にどの妥協点を求めるかをただ問いてるのみで、その結果が後の行政政策の根拠に活用されることが危惧される）。<u>インフラの維持管理が大変であることは充分理解でき、その点では良い機会を提供してもらったが、インフラの設備、サービス毎に状況が違うことが白書から読み取れることを踏まえ、もう少し具体的な問い掛け（アンケート）が必要だと感じる。</u>（もちろん、そこには建設的で明るい選択肢も入ってしかるべきである） <p><施設別マネジメント計画に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>他の市町村での実施状況や成功例のサーベイも必要では？</u>（海外事例含む） ・一般企業でも施設リニューアルが重要な案件となっており、<u>鎌倉市のインフラ計画のコンペ等実施しては？</u> <p><計画実行による効果に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・試算がざっくりしすぎていて、よく分かりません。書かれてない内訳の中には不要なコストの高すぎるものもあるはずなので<u>内訳を見せてほしい</u>です。

施設	主な意見
その他	<p><市民との連携体制の構築に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回インフラのアンケートに関しての資料を見せて頂き、<u>インフラについては何の関心を持っていなかった。(ごみ処理施設以外)策定を進めるに当たりもっと市民にアピールしてもよいのでは</u>と思っています。 ・インフラの整備計画は行政の重要事項であり、ゼロベースでのアンケートでヒヤリングすることが意味のある回答が得られるとは思えない。もう少し行政として<u>道路、河川、公園、緑地など具体的な項目ごとの行政の将来計画を提示</u>したうえでのアンケートであるべきである。 ・<u>地域住民の声をピックアップできる組織を作り全市民が協力して対処しなければならない課題</u>だと思う。 ・<u>鎌倉中に余裕のある老人の方の割合が高く、ボランティアで社会に関わっていこうという気概にあふれた方が多い</u>と思います。予算を使うことだけ考えるのではなく、<u>お金を使わないで余裕のある市民の方に呼びかけて、活気あふれる活動の街に</u>してほしいです。 ・他の自治体で、オープンデータに基づく、市民調査員が育ち始めている。鎌倉市でも<u>スマホアプリ開発して市民の気軽なインフラ維持管理を楽しめるような仕掛けを作るとよい</u>。恐らく市民活動に積極的な市民の多い鎌倉市では、うまく行くと思う。 ・今迄、あることを当たり前と<u>思っていた社会基盤は多額の費用と維持管理する人の努力によることを学びました。もう少し市民にPRしては如何でしょうか。甘えてしまっているので現実の厳しさを知るためにサービス水準を下げる必要もあると考えます。市民が市の財政を考え、何が必要かを説明し訴える市議を選出し、人口減少に見合った市議の数、市役所職員などの数や配置。その為に自覚しなくてはと</u>考えます。その上で必要ならば負担を考慮することもあっていいと思います。 ・具体的に、どのインフラがどのような維持管理に、何故必要か、やはり身近にあるインフラについてから考えるスタートから始まるのでそれが<u>必要</u>と思う。 ・<u>鎌倉市民の安全・安心のため、インフラをどのようにすべきかの理念を策定し、それを推進するための施策を短期・中長期計画を作らなければならない、また既にあるのならもっと市民に理解してもらうため開示・説明の努力が必要</u> ・<u>町内会、老人会の有効活用</u> 各自が培って来た経験とスキルを活かし地元で協力したいと思う市民の有効活用を更に検討すべきと思う。結果として特に老人の生きがいが更にめばえ健康管理等の面からも良いのではと思います。 ・税金に関していえば、十二分に支払っている中で、<u>これ以上負担が増えると鎌倉定住どころか出て行ってしまうのではないかと危惧</u>します。<u>納得のいく範囲で理解できる説明の上で協力できるか</u>とも思いますが？

施設	主な意見
その他	<p><市民との連携体制の構築に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>インフラの維持に関しては、その設備が命に関わるのか？生活レベルに関わるのか？などその要求の方向性を分類し必要性レベルを分類し、閾値を決めるべきである。また観光客だけでなく、インフラ維持に関する寄贈など募集するなどの理解も求めるべきと考える市の負担金も単身者や高齢者への負担は収入に応じて見直すべきと考える。金のある人からはお金を、元気な人からは労力（人助けとなれる仕組み）の提供などで入金を増額をできるようにする。能力のある人には専門的知識の提供など政治のための運営でなく、市民が参加できる仕組み作りを実施する。</u> ・<u>インフラの質を落とすか、受益者負担の増大の二者択一ではなく、もっと違った考え方、アイデアもあるのではありませんか。役人だけではなく、市民にも積極的に検討会への参加を呼びかけ、住民参加による将来像の検討が必要です。人口が減ると言っただけでまちが増やす方法を考えるべきではありませんか。全て現状ありきの様です。</u> ・<u>インフラの維持を観光にする企画があれば、鎌倉に関わるすべての人が少しずつ負担でき、かつPRにもなるのではないのでしょうか。</u> ・<u>鎌倉市と住民がもっと密になるべきであり、共に市について考え、歩んでいくべき。財政についても、住民から知恵をもらいインフラも含め必要不可欠な事は、きちんと行うべきである。県・国に対しても協力を仰いで頂きたい。</u> <p><市全体の取組みに関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>予算が限られている事も理解しますが、予算がないない・・・ばかりを言っていないで、予算を増やす努力や工夫が必要だと思います。鎌倉市全体で（都市整備部だけでなく）、市の収入が増える努力をすべきだと思います。観光産業、企業の誘致など横浜市が実施したようなことをすべきではないでしょうか？家庭でも家計が苦しい時は節約もしますが。収入が増える様に残業をしたりパートをします。鎌倉市にも頑張ってもらいたいです。</u> ・<u>市民の負担増のためには議会を含めた市財政の一層の儉約の姿を目に見える形で市民にみせることが大前提</u> ・<u>少子高齢化で人口が減少していくなら、もっと子育てしやすい環境や市からの支援を増やし「子供を育てやすい町」と評判をつけられれば市外からの転居者が増えると思います。高齢者ばかりが優遇され、子供を持つことにメリットが少ない現状では、人は増えず、財源も減っていくでしょう。私も親が住んでいなければ、ここに住もうとは思いません。</u> ・<u>安心をして住める環境を維持する為には地域や市民が協力するのは当然のことだと思いますが、まだまだ経費の削減など出来ることはあるはずだと思います。観光客も来る場所ということを利用して税収をUPさせるやり方はあると思う。神社仏閣や高所得者も多いということも。</u>

施設	主な意見
その他	<p><マネジメント計画全体に関する内容の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>サービス水準や管理水準を必要な水準から下げずに、可能な予算で行っていくために知恵を絞って、マネジメント計画を策定して行くことを期待します。</u> ・ <u>もっと生活環境・インフラの向上に基盤施策策定の土台を置くべきです。予算は、赤字予算を除いて「量入制出」は、経済の基本原則。否定形の文面、方向付けてのアンケート調査は不適切と思われま</u> <u>す。休祝日の市内の車の大渋滞で市民は莫大な被害・損害を被っている。いつまで放置されるのでしょうか。この対策を重要最優先施策テーマとして欲しい。駐車場経営を最優先する市政は、一向に改善されていない。「鎌倉は、山あり海あり名所あり、電車の利用が一番」とPRする鎌倉市環境宣言を、市長がどうして発信出来ないのですか？アンケート調査を実施した以上、必ず結果報告をして下さい。協力依頼書には「計画に反映してまいります」と記述がありますので、時間軸も明確にして公表して下さい。</u> ・ <u>鎌倉市のレベルで対応しきれない面は、県や国のレベルに働きかけをしてはどうか？（歴史、観光を柱とする特区制度の創設等による支援）</u> ・ <u>市のインフラは私達の市民生活に直結する大変重要な市の施策です。インフラ管理の予算不足によるインフラ倒壊事故だけは絶対起こらない様に重要度の優先事項による更新、維持管理の推進を望みます。今後の市のインフラマネジメント計画は、将来の世界遺産登録、年間1,500万人にも及ぶ観光客対策等々、将来古都鎌倉と市民生活の都市計画をどう展望して行くのかが計画の重要なベースとなると考えます。</u> ・ <u>市民の負担や観光客、来訪者への負担を前提として考えるのは間違っていると思う。市民の共有財産ともいべきインフラの維持管理は市がその財政負担の下で行うべきことであり、そのために我々の市民税の負担がなされているはずではないですか。現在あるインフラを徹底的に見直し、必要性や将来に向けての利用可能性・維持できるかという面からの検討を行って、残すインフラと「捨てる」インフラの選別をすべきだと考えます。</u>

質問7：あなたのことをお聞かせください。

あなたの性別は。

選択肢	回答数	割合
1. 男性	460	46%
2. 女性	504	50%
無回答	43	4%
合計	1,007	100%

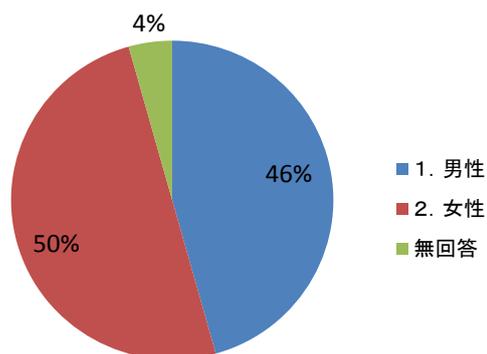


図 6 性別

あなたの年齢は次のどれにあたりますか。

選択肢	回答数	割合
1. 18～29歳	55	5%
2. 30～39歳	96	10%
3. 40～49歳	158	16%
4. 50～59歳	145	14%
5. 60～69歳	196	19%
6. 70歳以上	341	34%
無回答	16	2%
合計	1,007	100%

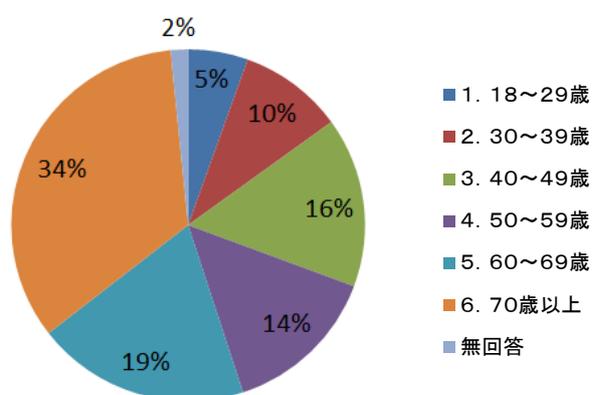


図 7 年齢

あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	割合
1. 会社員（事務系）	91	9%
2. 会社員（技術系）	92	9%
3. 会社員（その他）	63	6%
4. 経営者・役員	33	3%
5. 自営業	67	7%
6. 自由業	15	1%
7. 公務員	27	3%
8. 専業主婦・専業主夫	216	22%
9. パート・アルバイト	80	8%
10. 学生	22	2%
11. その他	33	3%
12. 無職	248	25%
無回答	20	2%
合計	1,007	100%



図 8 職業

あなたの家族構成を教えてください。

選択肢	回答数	割合
1. ひとり暮らし	104	10%
2. 夫婦のみ	323	32%
3. 子育て世帯（18歳未満の子どもと同居する世帯）	166	16%
4. 親と子ども世帯（18歳以上の子どもと同居する世帯）	205	20%
5. 親と同居世帯（あなたご自身が子ども）	112	11%
6. 三世代同居	58	6%
7. その他	29	3%
無回答	15	2%
合計	1,012	100%

※複数選択している回答があり、合計は合わない。



図 9 家族構成

あなたの居住地域を教えてください。

選択肢	回答数	割合
1. 鎌倉地域	297	29%
2. 腰越地域	157	16%
3. 深沢地域	152	15%
4. 大船地域	215	21%
5. 玉縄地域	167	17%
無回答	23	2%
合計	1,011	100%

※複数選択している回答があり、合計は合わない。

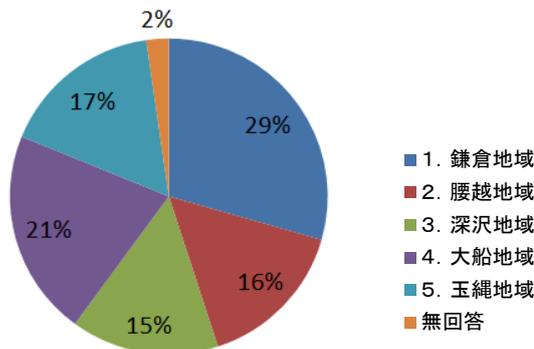


図 10 居住地域

3. 集計結果(地域別集計)

質問 1、2、3、5、7 (年齢) について地域別に集計を行い、以下に結果を示す。

なお、地域別の回答の中には複数地域を選択した回答がある為、合計値が単純集計の結果と異なる。

質問 1 : インフラの現状について

パンフレットをご覧いただき、鎌倉市のインフラ (道路、河川、公園等、下水道など) の現状について、ご理解いただけましたか。

表 11 インフラの現状について (地域別) 回答数

選択肢	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	居住地域 無回答	全地域 合計
1. 理解できた	105 (35%)	61 (39%)	57 (38%)	75 (35%)	59 (35%)	5 (22%)	362 (36%)
2. ある程度は理解できた	178 (60%)	91 (58%)	91 (60%)	135 (63%)	104 (62%)	10 (44%)	609 (60%)
3. 理解できなかった	13 (4%)	3 (2%)	4 (2%)	5 (2%)	3 (2%)	1 (4%)	29 (3%)
無回答	1 (1%)	2 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	7 (30%)	11 (1%)
合計	297 (100%)	157 (100%)	152 (100%)	215 (100%)	167 (100%)	23 (100%)	1011 (100%)

インフラの現状の理解度は、地域間での差はあまり見られず、1. 理解できたと 2. ある程度は理解できたを合わせると、全地域において 95% (鎌倉地域) から 98% (深沢地域と大船地域) という結果である。

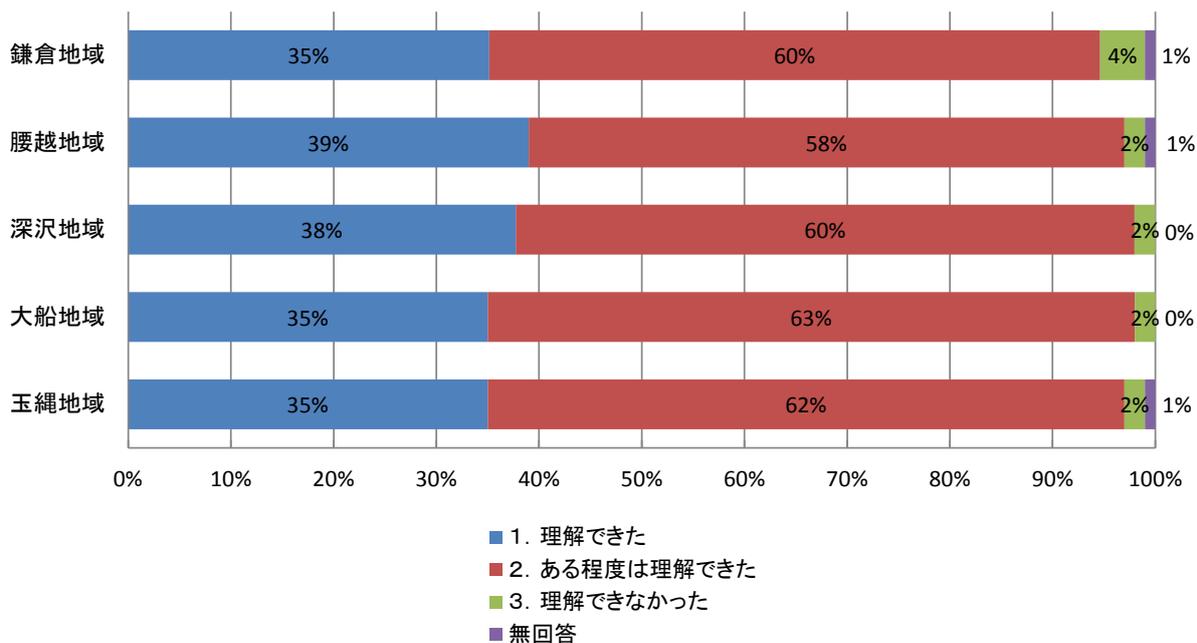


図 11 インフラの現状について (地域別) 割合

質問2：これまでのインフラの維持管理に関する印象について

日常生活の中で、鎌倉市のインフラの維持管理について、あなたの印象はいかがですか。

表 12 これまでのインフラの維持管理に関する印象について（地域別） 回答数

選択肢	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	居住地域 無回答	合計
1. 満足している	16 (5%)	9 (6%)	14 (9%)	11 (5%)	6 (4%)	1 (4%)	57 (6%)
2. やや満足している	50 (17%)	26 (16%)	18 (12%)	33 (15%)	30 (18%)	5 (22%)	162 (16%)
3. 特に満足も不満も 感じていない	103 (35%)	66 (42%)	52 (34%)	92 (43%)	64 (38%)	4 (17%)	381 (38%)
4. やや不満である	69 (23%)	33 (21%)	45 (29%)	52 (24%)	35 (21%)	2 (9%)	236 (23%)
5. 不満である	43 (14%)	11 (7%)	16 (11%)	19 (9%)	18 (11%)	3 (13%)	110 (11%)
6. 考えたことはない	14 (5%)	9 (6%)	6 (4%)	6 (3%)	9 (5%)	1 (4%)	45 (4%)
無回答	3 (1%)	4 (2%)	2 (1%)	2 (1%)	5 (3%)	7 (31%)	23 (2%)
合計	298 (100%)	158 (100%)	153 (100%)	215 (100%)	167 (100%)	23 (100%)	1014 (100%)

1. 満足していると2. やや満足しているを合わせると、各地域とも20%から22%であり、大差はない結果となった。

一方、4. やや不満である5. 不満であるを合わせると、最も低い28%の腰越地域に対し、深沢地域では40%という結果となった。

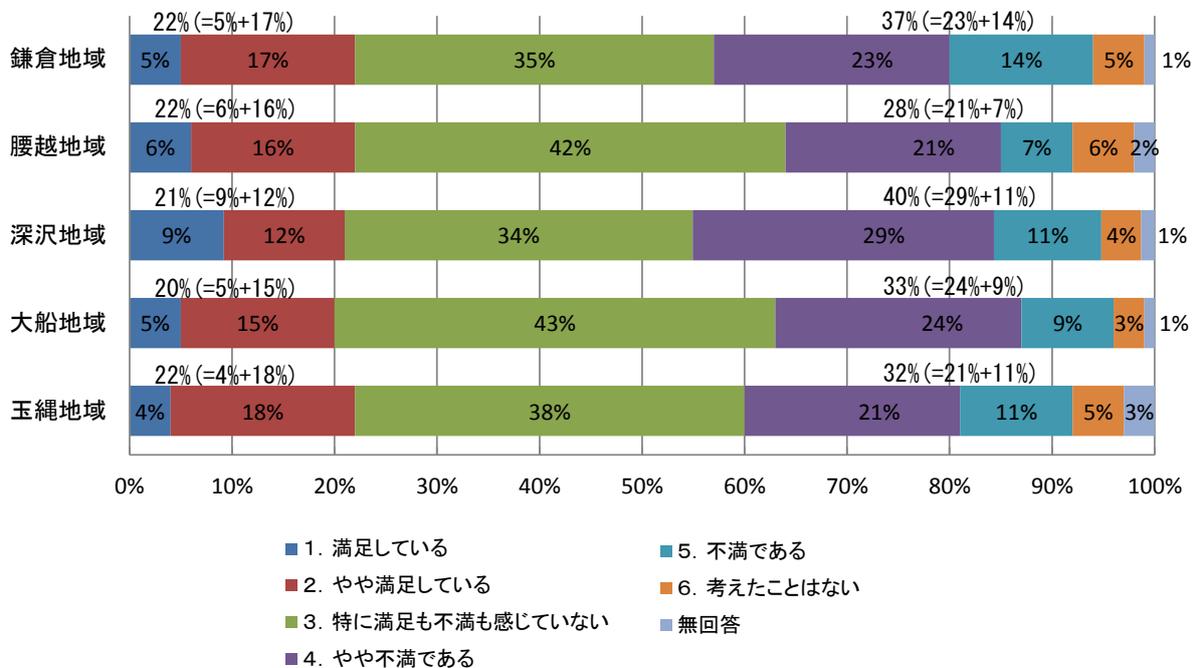


図 12 これまでのインフラの維持管理に関する印象について（地域別） 割合

質問3：インフラの課題について

鎌倉市のインフラの中で、どの施設に課題があるとお考えですか。3つ選び○をつけてください。

表 13 インフラの課題について（地域別） 回答数

選択肢	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	居住地域 無回答	合計
1. 道路（舗装）	151 (20%)	87 (20%)	93 (23%)	116 (20%)	76 (17%)	6 (14%)	529 (20%)
2. 道路付属設備（街 路照明灯、道路標識、 ガードレールなど）	142 (18%)	71 (17%)	69 (17%)	85 (15%)	70 (15%)	9 (20%)	446 (17%)
3. 橋りょう	30 (4%)	14 (3%)	12 (3%)	34 (6%)	20 (4%)	2 (5%)	112 (4%)
4. トンネル及び 地下道	56 (7%)	31 (7%)	25 (6%)	45 (8%)	46 (10%)	3 (7%)	206 (8%)
5. 河川	58 (8%)	32 (8%)	38 (10%)	46 (8%)	41 (9%)	1 (2%)	216 (8%)
6. 雨水調整池	21 (3%)	12 (3%)	6 (2%)	14 (2%)	20 (4%)	0 (0%)	73 (3%)
7. 公園	80 (10%)	33 (8%)	25 (6%)	57 (10%)	46 (10%)	3 (7%)	244 (9%)
8. 緑地	41 (5%)	22 (5%)	26 (7%)	28 (5%)	21 (4%)	1 (2%)	139 (5%)
9. 下水道	47 (6%)	32 (8%)	29 (7%)	45 (8%)	34 (7%)	4 (9%)	191 (7%)
10. 漁港	10 (1%)	4 (1%)	3 (1%)	2 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	20 (1%)
11. 生活環境施設 （ごみ処理施設）	124 (16%)	83 (19%)	69 (17%)	96 (17%)	85 (18%)	8 (18%)	465 (17%)
無回答	11 (2%)	5 (1%)	4 (1%)	8 (1%)	2 (1%)	7 (16%)	37 (1%)
合計	771 (100%)	426 (100%)	399 (100%)	576 (100%)	462 (100%)	44 (100%)	2,678 (100%)

最も地域間での差が大きい施設は1. 道路（舗装）であり、最も低い玉縄地域（17%）と最も高い深沢地域（23%）の差が6%となった。

また、4. トンネル及び地下道については最も低い深沢地域（6%）と最も高い玉縄地域（10%）では、差が4%となった。同様に7. 公園についても最も低い深沢地域（6%）と最も高い大船地域（10%）や玉縄地域（10%）では、差が4%となった。

それ以外の施設については3%以下の差となっている。

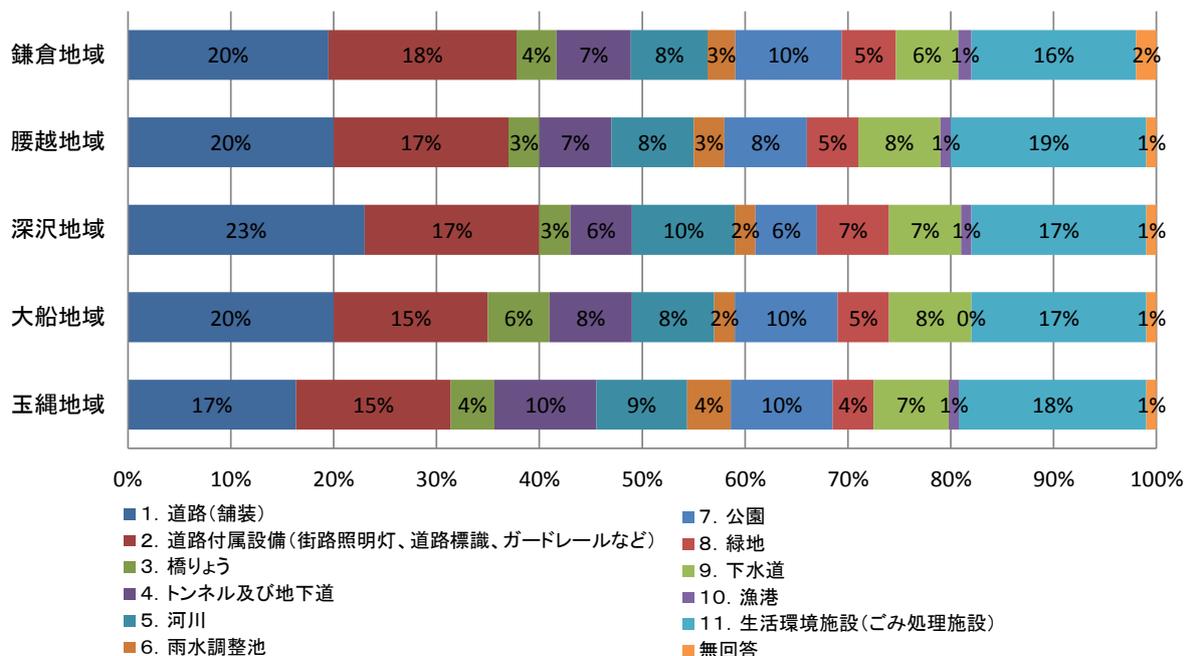


図 13 インフラの課題について（地域別） 割合

質問5：これからのインフラ維持管理のあり方について

市では、様々な手法を使い、インフラの維持管理経費を縮減することや平準化することを考えていますが、経費を「減らす」だけでは、適切で持続的な維持管理を行っていくことはできません。限られた予算の中で、インフラを安全で安心して使えるように維持管理していくには、一定の痛みを伴う場合も出てまいります。皆さんは今後のインフラ維持管理をどのようにすればよいとお考えですか。（複数回答可）

表 14 これからのインフラ維持管理のあり方について（地域別） 回答数

選択肢	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	居住地域 無回答	合計
1. サービス水準や管理水準を下げ、予算に応じた維持管理を行うべきである	51 (8%)	17 (5%)	20 (7%)	36 (8%)	27 (8%)	2 (4%)	153 (7%)
2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきである	58 (9%)	24 (8%)	35 (13%)	42 (9%)	33 (10%)	6 (13%)	198 (10%)
3. 現在あるインフラの機能を落として、維持管理を行うべきである	18 (3%)	6 (2%)	6 (2%)	12 (3%)	6 (2%)	3 (6%)	51 (2%)
4. 他の施策を中止してでも、インフラの維持管理を優先すべきである	78 (12%)	49 (15%)	33 (12%)	66 (15%)	39 (12%)	5 (10%)	270 (13%)
5. 市民の負担を増やしても、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきである	52 (8%)	39 (12%)	34 (13%)	44 (10%)	41 (13%)	3 (6%)	213 (10%)
6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきである	169 (26%)	86 (27%)	75 (28%)	97 (21%)	83 (25%)	9 (19%)	519 (25%)
7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきである	130 (20%)	72 (22%)	55 (21%)	77 (17%)	64 (19%)	6 (13%)	404 (20%)
8. わからない	18 (3%)	6 (2%)	5 (2%)	10 (2%)	12 (4%)	0 (0%)	51 (2%)
9. その他	68 (10%)	16 (5%)	0 (0%)	62 (14%)	20 (6%)	3 (6%)	169 (8%)
無回答	7 (1%)	5 (2%)	5 (2%)	4 (1%)	4 (1%)	11 (23%)	36 (2%)
合計	649 (100%)	320 (100%)	268 (100%)	450 (100%)	329 (100%)	48 (100%)	2,064 (100%)

最も地域間での差が大きいものは、6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきであるであり、最も低い大船地域(21%)と最も高い深沢地域(28%)の差が7%となった。

また、7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきであるについては、最も低い大船地域(17%)と最も高い腰越地域(22%)で5%の差となった。同様に2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきであるについても、腰越地域(8%)と深沢地域(13%)で5%の差となっている。他にも、5. 市民の負担を増やしても、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきであるについても、鎌倉地域(8%)と深沢地域(13%)で5%の差となっている。

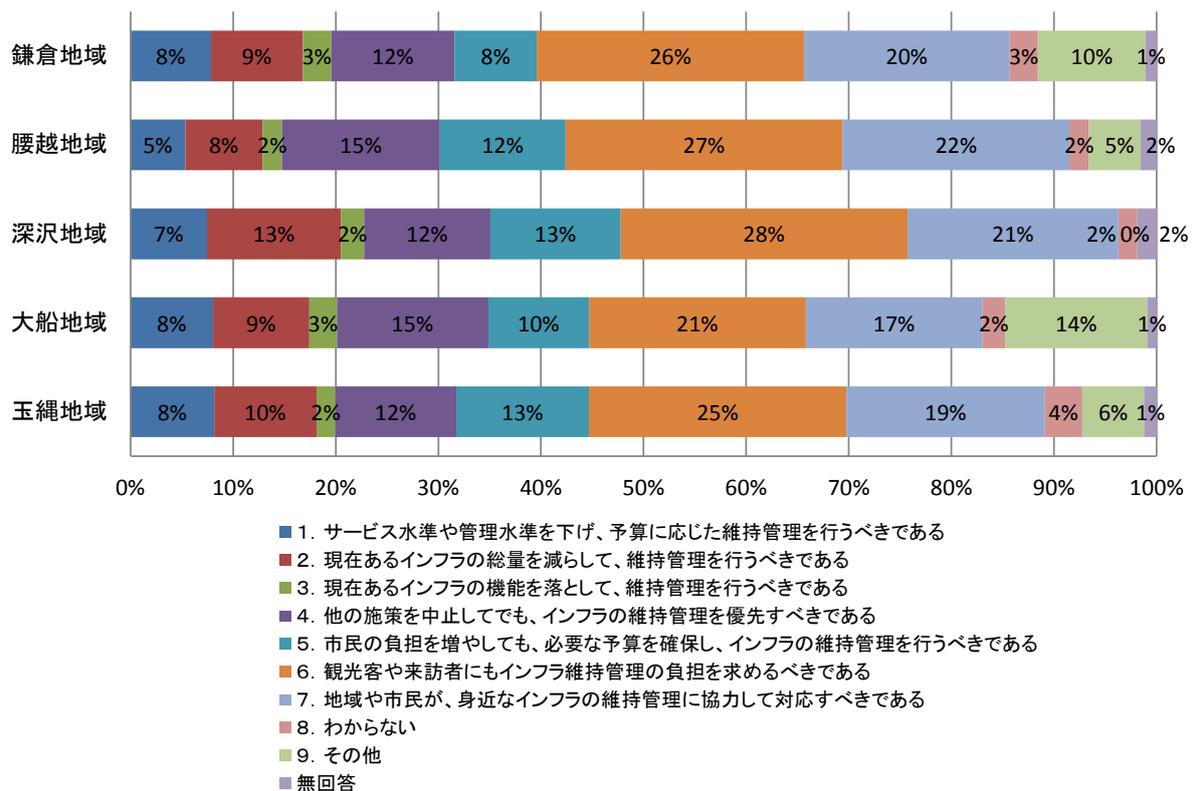


図 14 これからのインフラ維持管理のあり方について（地域別） 割合

質問7：あなたのことをお聞かせください。
あなたの年齢は次のどれにあたりますか。

表 15 年齢（地域別） 回答数

選択肢	鎌倉地域	腰越地域	深沢地域	大船地域	玉縄地域	居住地域 無回答	合計
1. 18～29歳	19 (6%)	7 (4%)	14 (9%)	7 (3%)	8 (5%)	0 (0%)	55 (5%)
2. 30～39歳	25 (8%)	8 (5%)	7 (5%)	35 (16%)	22 (14%)	0 (0%)	97 (10%)
3. 40～49歳	43 (14%)	19 (12%)	17 (11%)	45 (21%)	32 (19%)	2 (9%)	158 (16%)
4. 50～59歳	49 (17%)	19 (12%)	19 (13%)	33 (15%)	25 (15%)	1 (4%)	146 (14%)
5. 60～69歳	55 (19%)	37 (24%)	32 (21%)	42 (20%)	27 (16%)	3 (13%)	196 (19%)
6. 70歳以上	103 (35%)	67 (43%)	63 (41%)	53 (25%)	52 (31%)	5 (22%)	343 (34%)
無回答	3 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	12 (52%)	16 (2%)
合計	297 (100%)	157 (100%)	152 (100%)	215 (100%)	167 (100%)	23 (100%)	1,011 (100%)

全体的には60～69歳、70歳以上の回答割合が高い結果となっている。特に腰越地域と深沢地域での60～69歳、70歳以上の回答割合が特に高い結果となっている。

一方、大船地域と玉縄地域では18～29歳、30～39歳、40～49歳の割合が他の地域に比べて高い結果となっている。

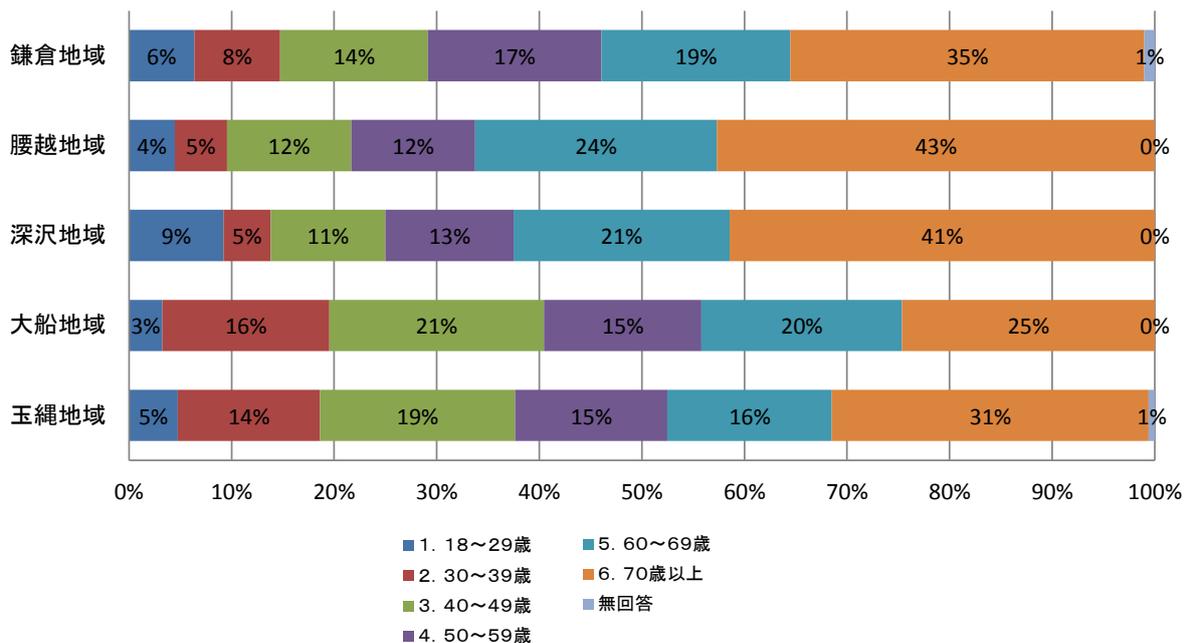


図 15 年齢（地域別） 割合

4. 集計結果(年代別集計)

各質問の回答について集計を行い以下に整理した。

質問1：インフラの現状について

パンフレットをご覧いただき、鎌倉市のインフラ（道路、河川、公園等、下水道など）の現状について、ご理解いただけましたか。

表 16 インフラの現状について 回答数

選択肢	18～59 歳	60 歳以上	年齢無回答	合計
1. 理解できた	175 (39%)	182 (34%)	5 (31%)	362 (36%)
2. ある程度は理解できた	269 (59%)	331 (62%)	5 (31%)	605 (60%)
3. 理解できなかった	9 (2%)	19 (3%)	1 (7%)	29 (3%)
無回答	1 (0%)	5 (1%)	5 (31%)	11 (1%)
合計	454 (100%)	537 (100%)	16 (100%)	1,007 (100%)

インフラの現状について、理解できたとある程度理解できたを合わせると 18～59 歳は 98% (39%+59%=98%)、60 歳以上は 96% (34%+62%=96%) であり、概ね理解頂けた結果となった。

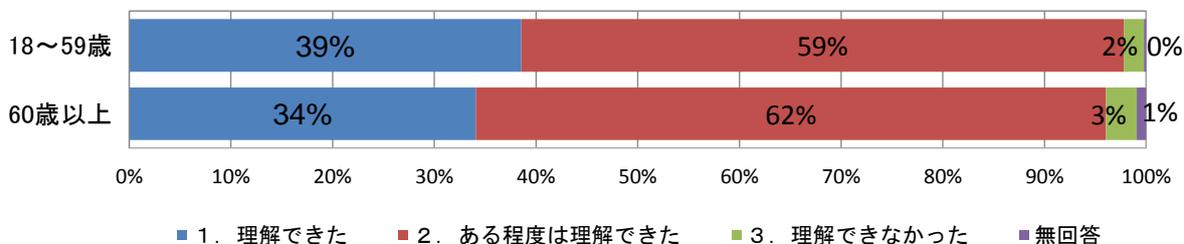


図 16 インフラの現状について 割合

質問2：これまでのインフラの維持管理に関する印象について

日常生活の中で、鎌倉市のインフラの維持管理について、あなたの印象はいかがですか。

表 17 これまでのインフラの維持管理に関する印象について 回答数

選択肢	18～59 歳	60 歳以上	年齢無回答	合計
1. 満足している	33 (7%)	23 (4%)	1 (6%)	57 (6%)
2. やや満足している	61 (13%)	99 (19%)	2 (13%)	162 (16%)
3. 特に満足も不満も感じていない	178 (39%)	199 (37%)	2 (13%)	379 (38%)
4. やや不満である	102 (22%)	131 (24%)	2 (13%)	235 (23%)
5. 不満である	53 (12%)	53 (10%)	3 (18%)	109 (11%)
6. 考えたことはない	21 (5%)	22 (4%)	1 (6%)	44 (4%)
無回答	7 (2%)	11 (2%)	5 (31%)	23 (2%)
合計	455 (100%)	538 (100%)	16 (100%)	1,009 (100%)

※複数選択している回答があり、合計数は合わない。

どちらの年代でも、特に満足も不満も感じていない人は、最も多い割合（18～59 歳は 39%、60 歳以上は 37%）だが、次に多いのが不満を感じている人になり、やや不満であると不満であるを合わせると両方の年代とも 34%と回答している。

一方、満足しているとやや満足しているを合わせると 18～59 歳は 20%（7%+13%=20%）、60 歳以上は 23%（4%+19%=23%）であり、概ね不満を感じている人が多いことが伺える。

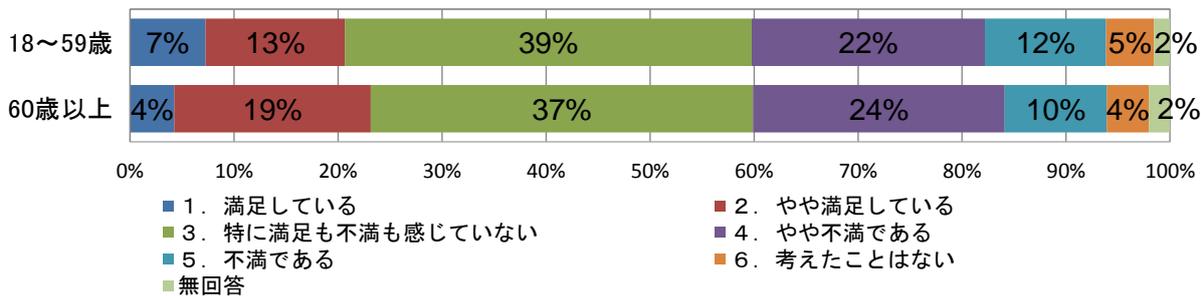


図 17 これまでのインフラの維持管理に関する印象について 割合

質問3：インフラの課題について

鎌倉市のインフラの中で、どの施設に課題があるとお考えですか。3つ選び○をつけてください。

表 18 インフラの課題について 回答数

選択肢	18～59 歳	60 歳以上	年齢無回答	合計
1. 道路（舗装）	232 (19%)	288 (20%)	6 (18%)	526 (20%)
2. 道路付属設備（街路照明灯、道路標識、ガードレールなど）	189 (16%)	248 (17%)	7 (21%)	444 (17%)
3. 橋りょう	57 (5%)	51 (4%)	3 (9%)	111 (4%)
4. トンネル及び地下道	116 (10%)	85 (6%)	3 (9%)	204 (8%)
5. 河川	102 (8%)	114 (8%)	0 (0%)	216 (8%)
6. 雨水調整池	25 (2%)	48 (3%)	0 (0%)	73 (3%)
7. 公園	127 (11%)	114 (8%)	3 (9%)	244 (9%)
8. 緑地	66 (5%)	72 (5%)	0 (0%)	138 (5%)
9. 下水道	82 (7%)	109 (8%)	0 (0%)	191 (7%)
10. 漁港	11 (1%)	9 (1%)	0 (0%)	20 (1%)
11. 生活環境施設 （ごみ処理施設）	184 (15%)	273 (19%)	6 (18%)	463 (17%)
無回答	15 (1%)	17 (1%)	5 (16%)	37 (1%)
合計	1,206 (100%)	1,428 (100%)	33 (100%)	2,667 (100%)

課題があると感じている施設で、最も多いものは道路（舗装）であり（526件・20%）、次に多いのは60歳以上が、生活環境施設（ごみ処理施設）（273件・19%）となり、18～59歳は、道路附属設備（189件・16%）、生活環境施設（ごみ処理施設）（184件・15%）が同じくらい多く、次にトンネル及び地下道（116件・10%）となっている。その後は両年代ともに公園、河川と続いており、道路関連と生活環境施設に対する課題を感じている人が特に多いことが伺える。

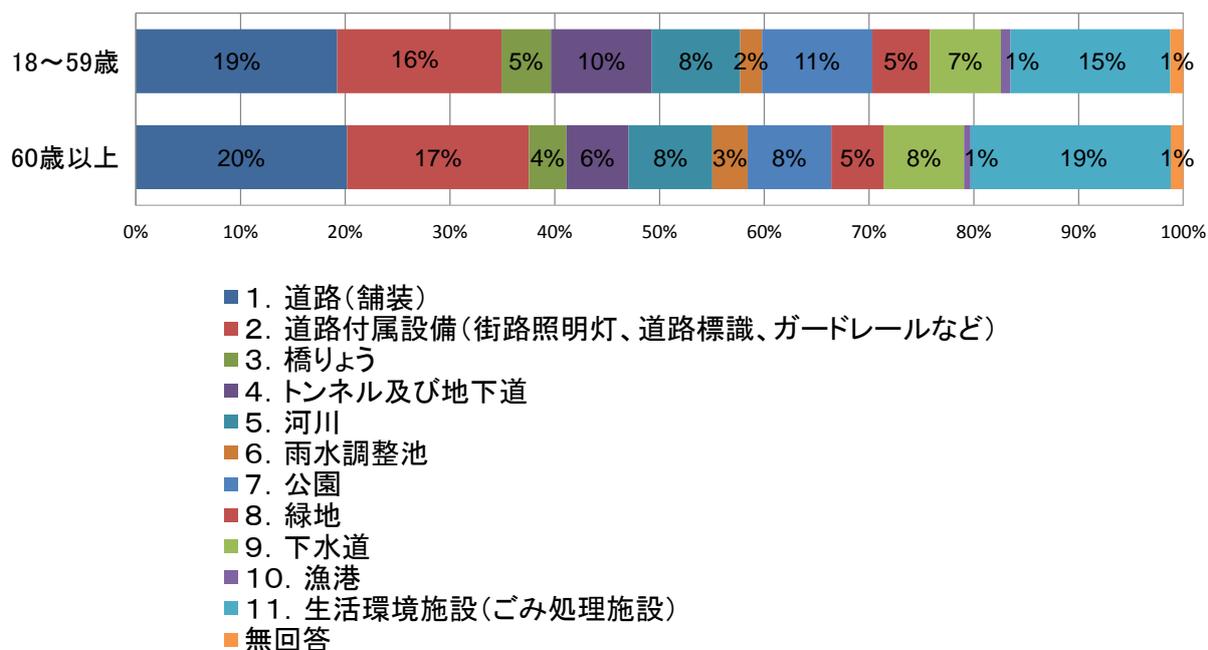


図 18 インフラの課題について

質問5：これからのインフラ維持管理のあり方について

市では、様々な手法を使い、インフラの維持管理経費を縮減することや平準化することを考えていますが、経費を「減らす」だけでは、適切で持続的な維持管理を行っていくことはできません。限られた予算の中で、インフラを安全で安心して使えるように維持管理していくには、一定の痛みを伴う場合も出てまいります。皆さんは今後のインフラ維持管理をどのようにすればよいとお考えですか。（複数回答可）

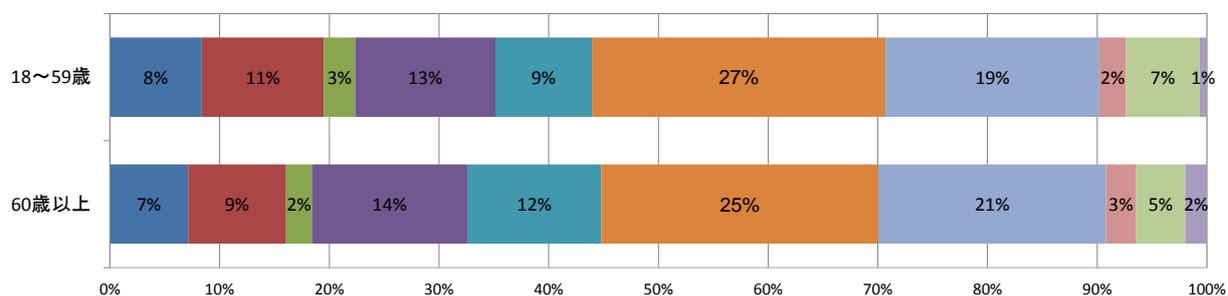
表 19 これからのインフラ維持管理のあり方について 回答数

選択肢	18～59歳	60歳以上	年齢無回答	合計
1. サービス水準や管理水準を下げ、予算に応じた維持管理を行うべきである	76 (8%)	76 (7%)	1 (4%)	153 (8%)
2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきである	101 (11%)	95 (9%)	2 (7.5%)	198 (10%)
3. 現在あるインフラの機能を落として、維持管理を行うべきである	26 (3%)	25 (2%)	0 (0%)	51 (2%)
4. 他の施策を中止してでも、インフラの維持管理を優先すべきである	116 (13%)	151 (14%)	2 (7.5%)	269 (13%)
5. 市民の負担を増やしても、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきである	80 (9%)	130 (12%)	2 (7.5%)	212 (11%)
6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきである	243 (27%)	269 (25%)	6 (22%)	518 (26%)
7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきである	177 (19%)	221 (21%)	3 (11%)	401 (20%)
8. わからない	22 (2%)	29 (3%)	0 (0%)	51 (2%)
9. その他	61 (7%)	48 (5%)	2 (7.5%)	111 (6%)
無回答	6 (1%)	21 (2%)	9 (33%)	36 (2%)
合計	908 (100%)	1,065 (100%)	27 (100%)	2,000 (100%)

最も多い回答は、6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきであると考える人は、18～59歳が27%、60歳以上が25%、年齢無回答が22%になり全体の26%に相当する。次に7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきである（20%）となっている。

また、4. 他の施策を中止してでも、インフラの維持管理を優先すべきである（13%）と、5. 市民の負担を増やしてでも、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきである（11%）の合計は24%になる。

一方、2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきである（10%）と、1. サービス水準や管理水準を下げ、予算に応じた維持管理を行うべきである（8%）との合計は18%である。



- 1. サービス水準や管理水準を下げ、予算に応じた維持管理を行うべきである
- 2. 現在あるインフラの総量を減らして、維持管理を行うべきである
- 3. 現在あるインフラの機能を落として、維持管理を行うべきである
- 4. 他の施策を中止してでも、インフラの維持管理を優先すべきである
- 5. 市民の負担を増やしてでも、必要な予算を確保し、インフラの維持管理を行うべきである
- 6. 観光客や来訪者にもインフラ維持管理の負担を求めるべきである
- 7. 地域や市民が、身近なインフラの維持管理に協力して対応すべきである
- 8. わからない
- 9. その他
- 無回答

図 19 これからのインフラ維持管理のあり方について

質問7：あなたのことをお聞かせください。

あなたの性別は。

選択肢	18～59歳	60歳以上	年齢無回答	合計
1. 男性	200 (44%)	257 (48%)	3 (19%)	460 (46%)
2. 女性	245 (54%)	254 (47%)	5 (31%)	504 (50%)
無回答	9 (2%)	26 (5%)	8 (50%)	43 (4%)
合計	454 (100%)	537 (100%)	16 (100%)	1,007 (100%)

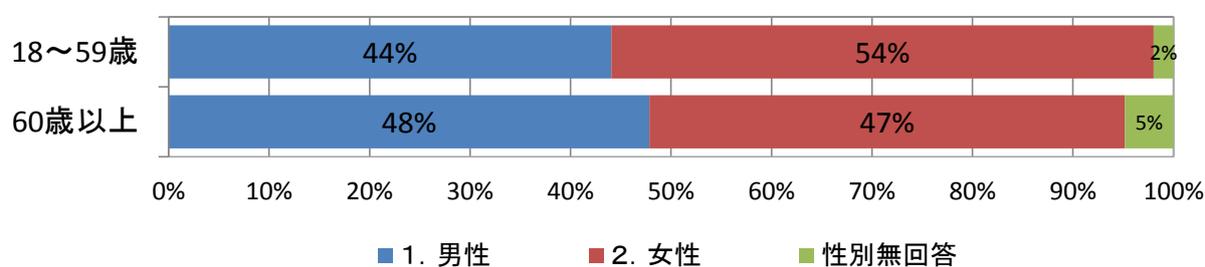


図 20 性別

あなたの年齢は次のどれにあたりますか。

選択肢	回答数				
	男性	女性	性別無回答	合計	割合
1. 18～29歳	24	30	1	55	5%
2. 30～39歳	34	61	1	96	10%
3. 40～49歳	65	91	2	158	16%
4. 50～59歳	77	63	5	145	14%
5. 60～69歳	101	91	4	196	19%
6. 70歳以上	156	163	22	341	34%
無回答	3	5	8	16	2%
合計	460	504	43	1,007	100%

あなたの職業を教えてください。

選択肢	18～59 歳	60 歳以上	年齢無回答	合計
1. 会社員（事務系）	80 (18%)	11 (2%)	0 (0%)	91 (9%)
2. 会社員（技術系）	80 (18%)	11 (2%)	1 (6%)	92 (9%)
3. 会社員（その他）	48 (11%)	15 (3%)	0 (0%)	63 (6%)
4. 経営者・役員	13 (3%)	20 (4%)	0 (0%)	33 (3%)
5. 自営業	38 (8%)	29 (5%)	0 (0%)	67 (7%)
6. 自由業	8 (1%)	7 (1%)	0 (0%)	15 (1%)
7. 公務員	21 (5%)	6 (1%)	0 (0%)	27 (3%)
8. 専業主婦・専業主夫	65 (14%)	151 (28%)	0 (0%)	216 (22%)
9. パート・アルバイト	51 (11%)	28 (5%)	1 (6%)	80 (8%)
10. 学生	21 (5%)	1 (0%)	0 (0%)	22 (2%)
11. その他	14 (3%)	19 (4%)	0 (0%)	33 (3%)
12. 無職	13 (3%)	234 (44%)	1 (6%)	248 (25%)
無回答	2 (0%)	5 (1%)	13 (82%)	20 (2%)
合計	454 (100%)	537 (100%)	16 (100%)	1,007 (100%)

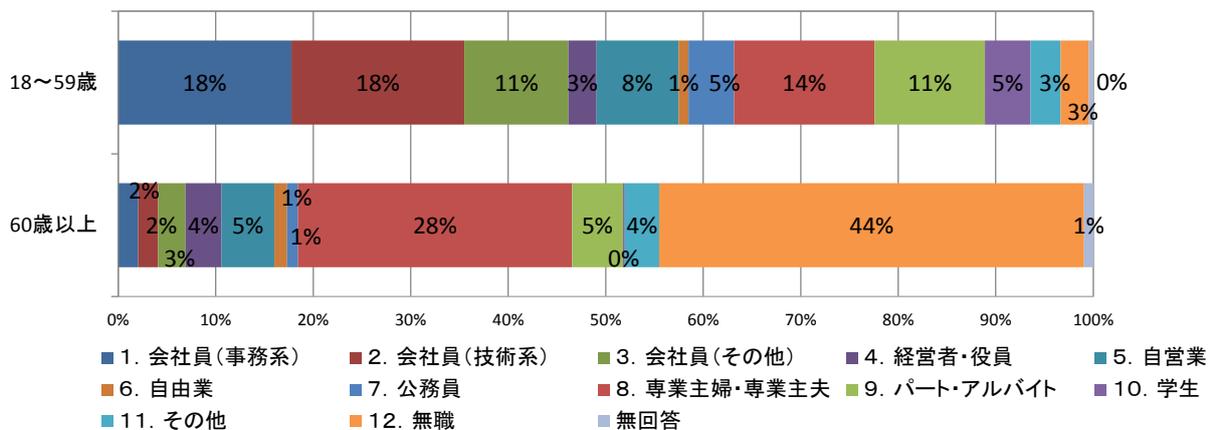


図 21 職業

あなたの家族構成を教えてください。

選択肢	18～59 歳	60 歳以上	年齢無回答	合計
1. ひとり暮らし	34 (7%)	70 (13%)	0 (0%)	104 (10%)
2. 夫婦のみ	69 (15%)	252 (47%)	2 (13%)	323 (32%)
3. 子育て世帯（18 歳未満の子どもと同居する世帯）	164 (36%)	1 (0%)	1 (6%)	166 (16%)
4. 親と子ども世帯（18 歳以上の子どもと同居する世帯）	71 (16%)	133 (25%)	1 (6%)	205 (20%)
5. 親と同居世帯（あなたご自身が子ども）	88 (19%)	24 (4%)	0 (0%)	112 (11%)
6. 三世代同居	28 (6%)	30 (6%)	0 (0%)	58 (6%)
7. その他	4 (1%)	25 (5%)	0 (0%)	29 (3%)
無回答	1 (0%)	2 (0%)	12 (75%)	15 (2%)
合計	459 (100%)	537 (100%)	16 (100%)	1,012 (100%)

※複数選択している回答があり、合計は合わない。

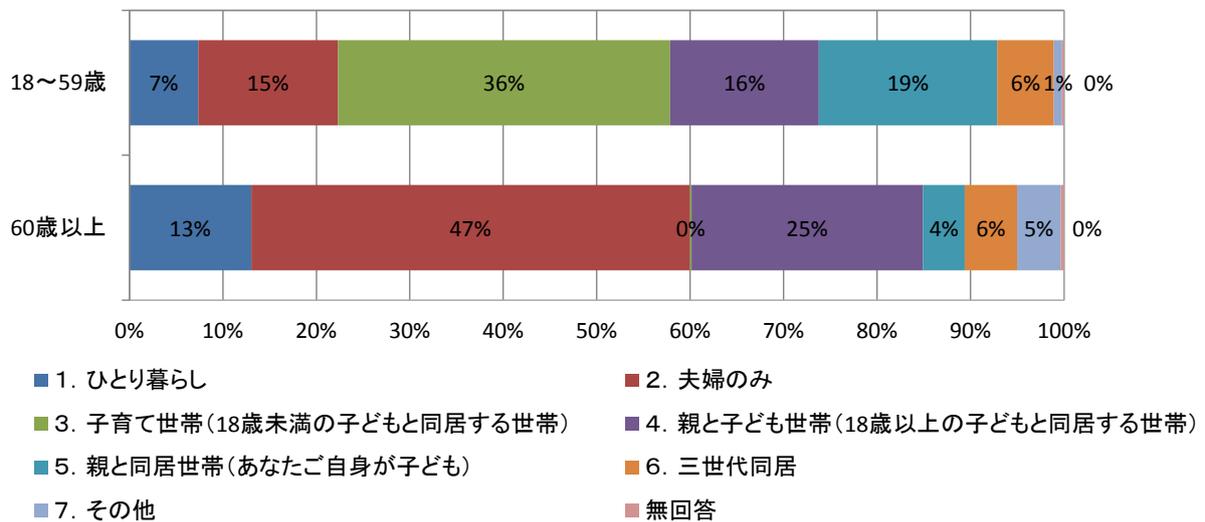


図 22 家族構成

あなたの居住地域を教えてください。

選択肢	18～59歳	60歳以上	年齢無回答	合計
1. 鎌倉地域	136 (30%)	158 (29%)	3 (19%)	297 (29%)
2. 腰越地域	53 (12%)	104 (19%)	0 (0%)	157 (16%)
3. 深沢地域	57 (13%)	95 (18%)	0 (0%)	152 (15%)
4. 大船地域	120 (25%)	95 (18%)	0 (0%)	215 (21%)
5. 玉縄地域	87 (19%)	79 (15%)	1 (6%)	167 (17%)
無回答	3 (1%)	8 (1%)	12 (75%)	23 (2%)
合計	456 (100%)	539 (100%)	16 (100%)	1,011 (100%)

※複数選択している回答があり、合計は合わない。

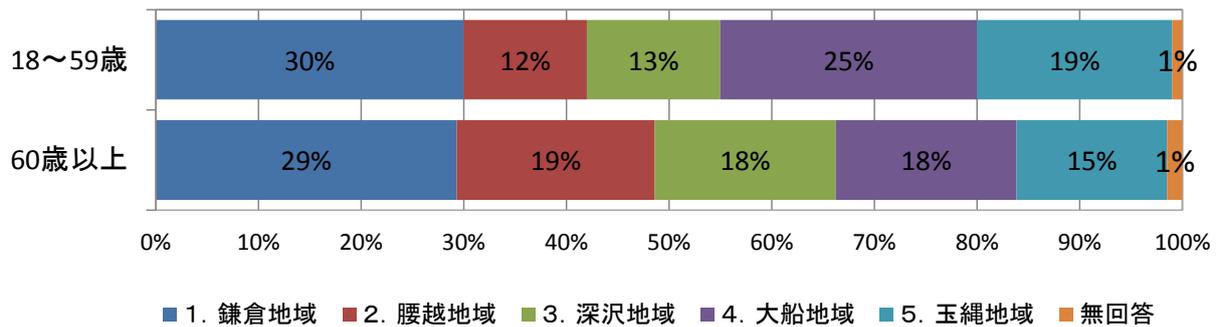


図 23 居住地域